

59

日本の巨木第7位

おおぶね じん じゃ べん けい

大船神社の弁慶スギ

弁慶スギは、上矢作町大船山の大船神社境内にある幹囲10.6mのスギの巨木。大船神社の前身大船寺は、かつて真言密教の修験者たちによって開かれ、修験道の行場として盛んであった。周囲には多くのスギの大木が点在し、その中でも弁慶スギは特に大きく、スギとしては国内第7位、県内第2位の大きさを誇る。1991（平成3）年の調査によると、樹齢は推定2,500年といわれている。老木のため損傷した部分には、樹木医によって手当てが施されている。その名の由来は、諸説あるが、奈良東大寺の初代別当良弁の弟子の弁慶が植えたという一説がある。1959（昭和34）年、県の天然記念物に指定されている。



弁慶スギ

ひとくちメモ

- 名の由来として次の説がある。源義経主従が奥州下向の折、大船山に登山し本尊に祈願した。その時弁慶はスギの小枝を折って「この祈願むなしからずんば、この枝生い栄えよ」と地に挿した。この枝が弁慶スギとなり、本尊の加護で無事平泉へ下ることができたという。

関連項目

- ・アライダシ自然観察教育林（P35）
- ・上矢作風力発電所（P49）・大船神社と松並木（P49）

60

日本最大級のヒノキ

かさ ぎ

笠木

笠木は上矢作町の国有林にあるヒノキの巨木。幹囲7.5m、樹高26m、推定樹齢800年。根元には空洞があり、さらに太くなっている。見た目では傘のようにも見える。戦国時代、この辺りが岩村と飯田を結ぶ裏道として使われ、このヒノキの下で馬の引き継ぎがされたことから「お待ちひのきの桧」と呼ばれたという。名の由来は、当時笠置地方の村々が監視できたことから。明治維新前は、「笠置」が「笠木」と書かれていた。2000（平成12）年、林野庁の国有林における「森の巨人たち百選」に選ばれた。



笠木

ひとくちメモ

- 林野庁では次世代に残すべき国有林野内の代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定している。東濃地域では、笠木のほかには、中津川市の神坂大櫓が選定されている。

関連項目

61

丸みのある美しい樹冠

だんご

団子スギ

明智町にあるスギの巨木で、幹囲5.5メートル、樹高18.2メートル、枝張り東西、南北とも21メートル。地上3メートルの辺りから38本もの横枝が四方に張り出し、樹形が団子のように丸味を呈しているところからこの名が付けられた。1851

(嘉永4)年の記録にも、すでに団子杉と記されており、樹齢は約千年と伝えられる。1574(天正2)年武田勢の攻略によって、明知城落城の際、城主遠山^{かずゆき}一行が愛臣の亡がらをこの地に葬ったという伝説が残っている。

1957(昭和32)年、県の天然記念物に指定されている。



団子スギ

ひとくちメモ

- 団子スギ近くの古沼は、明知城築城の際、城の水源として丸木樋を通し、東の丸にある貯水池まで飲料水を送ったとされる。

関連項目

・明知城跡 (P6)

62

市の木指定の遺存植物

ハナノキ

ハナノキは日本固有種で、長野県、愛知県、岐阜県、滋賀県の4県のみで自生するカエデ科カエデ属の落葉樹。ハナカエデともいい、絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。雌雄異株、新芽が吹く前に赤い花を咲かせ、これが名前の由来。岩村町富田のハナノキは、1922(大正11)年に国の天然記念物に指定された。この国指定の際には、同町出身の植物学者三好^{みよしまなぶ}博士が貢献されている。そのほかに市内各所に自生地があり、三郷町亀ヶ沢のハナノキ自生地が、県の天然記念物に指定されている。2005(平成17)年、市の木に制定された。



ハナノキ

ひとくちメモ

- 岩村町富田のハナノキは独立行政法人森林総合研究所林木育種センター本所に、挿し木により養成したクローン2本が保存されているとのこと。

関連項目

・三好博士 (P13) ・ヒトツバタゴ (P35)
・シデコブシ (P37)

ヒトツバタゴ

ヒトツバタゴはモクセイ科の落葉高木。日本では、対馬と、愛知県、岐阜県の木曾川周辺のごく限られた地域に自生している。雌雄異株で5月中旬から下旬にかけて細かい白い花をいっぱい咲かせ、遠くから見ると雪をかぶったように美しい。市内には多くのヒトツバタゴの自生地があり、その中で、笠置町姫栗の自生のヒトツバタゴは、本州では最初に国の天然記念物に指定されている。また、このヒトツバタゴは、国内では最も標高が高いところに咲くヒトツバタゴである。そのほかには、大井ヒトツバタゴ（大井町古瀬）、中野方ヒトツバタゴ自生地（中野方町太田、赤又駄^{あかんだ}）、明智町ヒトツバタゴ（新井、大真菰^{おおまこも}、大庭）が県の天然記念物に指定されている。



国指定天然記念物、市木のヒトツバタゴ（笠置町）

ひとくちメモ

ヒトツバタゴの名の由来は、「一つ葉（単葉）のタゴ（トネリコ）」から。同種のタゴは複葉であるが、ヒトツバタゴは単葉。珍しい木であるため、ナンジャモンジャ、アンニャモンニャ、六道木、ナタオラシなど、各地でいろいろな名前と呼ばれている。

関連項目

・ハナノキ（P34） ・シデコブシ（P37）
・笠置山（P51）

アライダシ自然観察教育林

上矢作町の北東部、飯田洞川の支流域に位置し、面積はおよそ10^{ヘクタール}、針葉樹と広葉樹が混じり、手つかずの美しい森林景観をつくり出している。季節風や雪の影響を受けやすい北側にはブナが、それ以外の区域にはモミやツガなどの針葉樹が、中には25^{メートル}を超えるモミの木などが生育する。パンフレットに従って遊歩道を歩くと、ミズナラ、ブナ、サワラ、モミなどからなる見事な天然林や、多くの山野草に接することができる。また、自然科学教育や自然観察ができる自然の森でもある。上矢作振興事務所から暗井沢林道、大船牧場を經由して13^{キロメートル}。その内1.7^{キロメートル}ほどは歩いて行かなければならない。アライダシ自然観察教育林は国有林であるため、入林許可が必要。（問い合わせ：上矢作振興事務所）



アライダシ自然観察教育林

ひとくちメモ

自然観察教育林とは、国有林の中でも風景の優れている地域にあって、自然休養の場として自然探勝、ハイキング、キャンプ、森林浴などの利用に適した相当程度の規模を有する地域のこと。レクリエーションの森とも呼ばれる。

関連項目

・弁慶スギ（P33） ・上矢作風力発電所（P49）
・大船神社と松並木（P49）